

地域の課題をとらえて

6氏が一般質問



高橋 秀之

Q、二期目の選挙公約の実績の評価は
A、一番の懸案事項の北星園改築は実現・他の公約は今、取り組んでいる



植村 敦

Q、ほろのべ町自律プランでの財政経費削減率は。
A、数値では表現できないものもあるが削減目標の約50%程度です。

質問 情報の公開と町民との対話をもう少し町民が参加しやすい方法にしては。

町長 きめ細かに町政懇談等を行っているつもりですが、更に工夫、努力をします。

質問 世代間の交流を通じて高齢者の社会参画を進めるとありますが。

町長 商工会・農協の青年部の協力をいただき、お年寄りの皆さん方の意見を聞き活力のあるまちづくりを進めている。診療所の着工、こざくら荘の増築など町の施設の充実を今進めている。

質問 酪農畜産の経営安定と生産性の高い酪農業の確立、現時点での進捗状況は。
町長 基盤整備が一番大事だと思う。政権が交代して、少し出来なくなっている中、道・国に要請もしている。又、農協さんと打合せをしながら計画が上がってきたら町として検討していく。

質問 地元消費力の流出等で益々厳しい環境であり消費促進のために何か検討を。

町長 私自身も消費の流出等は懸念するところです。商工会50周年に向けての事業に対応しており、何か要望があつたら出来ることは、対応していく。

質問 新規産業の育成と雇用の創出は。

町長 新規産業は進んでいないのが実態です。具体的なことが出てきたら町としても協力する。

質問 引き続き町政を担当していく気持ちは。

町長 三期目に向けて意欲を持って、少しでも幌延町が発展するように努力したい。

質問 ほろのべ町自律プランの計画達成率は。

町長 自律プランは自助・共助・公助の考え方に基づき協働のまちづくりによって地域の課題を解決していくことを目指してきた。

町民の皆様にも痛みを伴う施策の見直し予算の削減などご理解と協力を得て単独自律の基礎を固めることができたが研究・検討の段階で止まっているものもあり数字を用いて率では表現できない。

質問 ほろのべ町自律プランの計画で着手できなかった事業は何か。

町長 行政パートナー制度、人事評価制度、酪農経営の高度化(法人化)、コミュニティビジネス、地域通貨、バイオマスエネルギー、シババー人材センターなどが着手できませんでした。

質問 まちづくりや行政改革に関する委員会、審議会の数と活動状況は。

町長 町民参加の手続きとして、現在のところ行政改

革推進委員会、安全で安心なまちづくり推進委員会は年1〜2回程度、北星園民営化検討審議会は今まで4回の開催となっている。

一般公募の参加が少ない現状ではあるが町としての情報の提供に努力し行政と町民がこれを共有し議論を深めていきたい。

質問 ほろのべ町自律プランの最大の成果と今後の課題は。

町長 町民の皆様との議論を通して住民・地域・行政の役割分担、協働のまちづくりの必要性について相互理解が深まった。

今後の課題は参加・協働の連携を実践し高めるための手法の選択・使命感・行動力の向上が必要と考える。今後の自律プラン作成に関しては第5次総合計画との兼ね合いもあるが、幅広く町民皆様の意見を聞いて平成22年度からの新しい自律プランを作成したい。